

小路登一先生を悼む

長井眞隆

Memory of Late Touichi Shoji

Shinryu Nagai

長年、本会を支えてこられた小路登一先生が、平成22年3月3日ご逝去されました。享年82歳でありました。先生のご功績に深甚の敬意を表しますとともに、ご生前のご活躍を偲び心からお悔やみ申し上げます。

先生は昭和3年8月4日、広島県呉市にお生まれになり、父の除隊後名古屋市に移住。昭和24年3月岡崎高等師範学校卒業と同時に、父母の故郷入善町上野に移住され、同年、富山県立入善高等学校に奉職されました。つづいて富山県立新川女子高等学校、富山県立桜井高等学校、富山県科学教育センター、富山県総合教育センター、富山県立新川女子高等学校(教頭)に奉職。富山県総合教育センター第二研究部長を最後に平成元年3月ご退職されました。

その間、一般に苦手とするスゲ・シダ類の研究を手掛けられるとともに、富山県植物友の会会長、富山県植生研究会会長、そのほか富山県カモシカ保護委員、富山県環境評価技術審査委員などの多くの公職を歴任されました。「富山県産スゲ属植物目録」、「朝日岳・長梅山方面の植物」などの論文のほか、富山市科学文化センター(現富山市科学博物館)、富山県中央植物園の整備に貢献されました。

富山県立自然公園指定植物調査に当たっては、中心的な役割を果たされ、朝日県立自然公園をはじめ5公園の指定植物をまとめられました。環境庁の『富山県の植生図』(1977)の分担執筆もされ、富山県の植生全体を全国レベルで整理されました。また、環境庁の委託を受けて自然環境保全基礎調査を実施し、ことに5年後の1978年の夏、第2回調査の折り、大田、小路、長井で後立山連



峰の唐松岳から鎌ヶ岳、白馬岳、朝日岳、長梅山の縦走現地調査を行いました。最初は大変な豪雨がつきポンチョも用をなさぬ中の調査でした。雨の中、先生は清水岳の岩隙で小さなヒメハナワラビを2株再確認され「よう生きていたなあ」と喜ばれたときは、まさに白馬連山をこよなく愛される先生ならではの姿でありました。

平成10年8月5日、6日、立山山麓で開かれた第40回全国自然公園大会に出席のため、4日来県された常陸宮殿下ご夫妻が、同日に杉沢の沢スギをご訪問されました。その折、小路先生は殿下ご夫妻に沢スギ自然館や林内を約40分にわたり、ご案内の大任を果たされたのであります。

平成15年、先生は植物研究の功績に対して、調査・学術研究部門「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰をお受けになりました。

一番の思い出は、先に逝かれた大田弘先生を中

整理番号 2010-掲載号	種名	確認年月日	時間	天候	確認場所 (市町村)	確認場所 (詳細)	確認場所	三次メッシュ	標高 (m)	確認物	環境等	確認者	報告者	備考
096	ニホンカモシカ	20100518	12:00	晴れ	南砺市	小又	道路	38-5436-6675-A	270	生体 成獣1	道路・田	後藤優介	後藤優介	老齢個体で白内障であった。
097	ニホンカモシカ	20100526	13:15	雨	中新川郡上市町	稲村	産廃処理場	26-5337-0307-D	400	生体 成獣1	竹林・林・崖	村井仁志	村井仁志	
098	ニホンカモシカ	20100526	13:40	雨	中新川郡上市町	伊折	林道	35-5437-7389-D	500	生体 成獣1	河川・杉林・道路	村井仁志	村井仁志	
099	ニホンカモシカ	20100711	10:20	曇り	中新川郡立山町	吉峰		34-5437-7226-B	250	生体 成獣1	林・公園	澤田研太	澤田研太	目視
100	ニホンカモシカ	20100830	15:00	晴れ	中新川郡上市町	伊折	道路脇	35-5437-7388-C	600	足跡	道路	村井仁志	村井仁志	
101	ニホンカモシカ	20100902	17:30	晴れ	富山市大山町	本宮		44-5437-6395-A	470	生体 成獣1、 幼獣1	スギ林	後藤優介	後藤優介	
102	ニホンカモシカ	20100917	PM	晴れ	中新川郡上市町	伊折		35-5437-7388-C	700	足跡	沢、林道	村井仁志	村井仁志	
103	ニホンカモシカ	20100917	PM	晴れ	中新川郡上市町	伊折		35-5437-7387-B	640	生体 成獣1	林・林道	村井仁志	村井仁志	
104	ニホンカモシカ	20100917	PM	晴れ	中新川郡上市町	千石		35-5437-7387-C	640	生体 成獣1	草原(ススキ)	村井仁志	村井仁志	
105	ニホンカモシカ	20100917	PM	晴れ	中新川郡上市町	千石	ふるさと郷 自然公園	35-5437-7386-A	420	生体 成獣1	林道・林	村井仁志	村井仁志	
106	ニホンカモシカ	20100927	6:30		中新川郡立山町	原	道路	44-5437-6383-A	480	生体 幼獣1	草地	後藤優介	後藤優介	当歳が単独で歩行していた
107	ニホンリス	20100328	11:00	曇り	中新川郡立山町	吉峰	林	34-5437-7226-B	250	生体 成獣1	林・林道・公園	澤田研太	澤田研太	目視
108	ニホンリス	20100505	11:00	晴れ	富山市八尾町	西松浦	神社横	42-5437-6100-C	300	果	スギ林	平野康美	澤田研太	果を2個拾った
109	ニホンリス	20100830	16:40	晴れ	中新川郡上市町	蓬沢	道路	26-5537-0307-D	400	生体 1	林・河川・林道	村井仁志	村井仁志	目視 (道路横断)
110	ニホンリス	20100903	8:00	晴れ	富山市大山町	本宮	道路上	44-5437-6395-C	490	死体 成獣1	スギ林	後藤優介	後藤優介	道路で轢死
111	ニホンリス	20101019	15:00	曇り	南砺市平村	上松尾	道路	48-5436-5737-A	660	生体 成体1	林・道路	澤田研太	澤田研太	目視 道路を横断
112	ニホンリス	20101121	12:10	晴れ	富山市大沢野町	蟹倉山	林	42-5437-6168-C	280	生体 成獣1	林・林道	澤田研太	澤田研太	目視 林の中を移動
113	ムササビ	20100510	14:50	晴れ	富山市大山町	本宮	森林	44-5437-6378-C	910	生体 成獣1	森林	後藤優介	後藤優介	ブナの樹洞をのぞきこんだ ところ飛び出してきた。
114	ムササビ	20100518	19:20	晴れ	中新川郡立山町	芦新寺	神社	44-5437-6391-B	410	生体 成獣1	スギ林	後藤優介	後藤優介	目視
115	アカネズミ	20100405	10:30	曇り	富山市中町	吉住	建物近く	32-5437-7066-D	120	生体 成獣1	草むら	澤田研太	澤田研太	目視
116	クマネズミ	20100602	13:00	晴れ	中新川郡立山町	千寿ヶ原	屋内	44-5437-6386-B	470	生体 成獣1	屋内	後藤優介	後藤優介	粘着トラップに捕獲
117	ノウサギ	20091125	11:00	晴れ	富山市八尾町	西松浦	家屋の裏	42-5437-6100-C	300	生体 成獣1	林	平野康美	澤田研太	目視、重機の音に驚き飛び 出してきた
118	ノウサギ	20100609	10:00	晴れ	高岡市	谷内	神社裏	14-5537-1031-D	20	生体 成獣1	林	澤田研太	澤田研太	目視

備考欄の「北日本」は北日本新聞、「富山」は富山新聞、「読売」は読売新聞で、2010年の朝刊より引用。

心に時間をかけた『富山県植物誌』の執筆です。この植物誌に証拠標本の記載がないことが心残りの一つですが、これを承知の上で敢えて執筆に取りかかったのです。それは大田先生の強い意志により、「私は年齢的にも限界にきている。今、この富山県置県100年を記念して書かないとチャンス逃す。標本をチェックして記入する時間はないが標本はある。とにかく将来の叩き台として書こうではないか。」と踏み切ったのです。さっそく大田先生は大学ノート数冊に種と群落のリストをお書きになり、私らは口絵と植生概要、付録を担当しました。植物リストは小路先生から長井へと順次送り、加筆することにしました。しかし、作業は思うように進まず困っていたところ、小路先生が富山県科学教育センターに転勤され、JRの朝の通勤電車が一緒になったので、これ幸いと席を約束して黒部駅で乗り合わせて作業を進めました。アタッシュケースを大枚はたいて購入し、それを机代わりに膝に載せて鉛筆を採りました。乗客たちは変な眼で見ていることと思いますが、数ヶ月後ゲラ刷りができ、校正も順次済ませ、最後は索引に取り掛かりました。師走28日から私の家でテープを短く切って植物名を書き、アイウエオ順に並べてページを記入。思いのほか大晦日まで3日間かかりました。完成は翌年の2月でしたが、日付は置県100年の1983年12月31日として発刊したのです。2,000部を印刷し諸経費を抜き印刷費のみの6,000円。出版祝賀会をすることもなく、執念で世に放り出したようなものです。予想通り裏付け標本は……と、言われましたが、富山市科学文化センターに収蔵してある私の標本に、大田先生の大量の標本が没後寄贈・移管され、富山県植物誌の裏付け標本が順次姿を見せました。

富山市科学博物館太田道主幹学芸員は、旧富山市科学文化センター当時、北日本新聞に連載した「ふしぎ発見-20年の歩み-」第85回「50年に及ぶ調査-県植物誌の記載裏付け-」（2000年8月12日掲載）の中で次のように述べています。

「富山県植物誌発行当初、問題点が一つ指摘されていた。それは記録されているデータが標本に裏付けされているかどうか明らかにされていない

かったことだ。大田先生から科学文化センターに標本が寄贈されたのは1991年6月だった。9,345点で2,193種類に及ぶ。このコレクションの寄贈で、先の問題点はほぼ解消した。既にセンターに寄贈された長井前館長のコレクションと合わせると、富山県植物誌の記載を裏付ける標本はセンターにほぼ集まった。ありがたいことだが、保管・整理するわれわれの責任も重くなった。富山の植物研究の大きな礎を築いた業績は極めて大きい。残された標本はその価値をさらに高めていこう。」

こうして発刊された『富山県植物誌』は、現在、富山県フロラの台帳として新植物記載の拠り所になっていることは有難いことである。今度、小路先生のご家族から約7,000点の標本が富山市科学博物館に寄贈・移管されることになりました。『富山県植物誌』の裏付け標本として、執筆者3人の標本が全部揃うこととなります。今日、環境の変化の激しい中、戦前・戦中・戦後の、当時の植物相の証しとして標本の意味は大きく、また一点一点に採集者の思いとドラマがあります。

小路先生は、物事に動ぜず仕事は緻密で性格は穏やか。事実を確認しながら生きた方でありました。亡くなられた当日弔問にお伺いしたとき、みつ子奥様は、「主人はごじゃごじゃ言う人ではなく、マイペースの人でした。亡くなるときも静かで穏やかでしたよ。」と、死を受け入れ淡々と話されました。喪主・長男衆一さんは葬儀の挨拶で、「父は入院することもなく、家で天寿をまっとうしました。私たちは父の看病に専念できました。晩年、パーキンソン病になったが、死の直前まで穏やかな生活でした。」と。この奥様とご長男の言葉は先生の生涯を彷彿とさせ、とても印象的でありました。

逝く人と送る人の樹代。時空を超えて互いに死を受け入れ合う心情に深い感銘を受けたのです。人にとって究極の自然は死であります。小路先生の自然人らしい穏やかなご命寿をうらやましくも思い、先生の充実した生涯に想いを新たにしているところです。

(2010.4.8記)

## 活動報告 有峰森林文化村語り部講 公開観察会 「有峰の豊かな自然観察会」

◇日時：平成22年8月28日(出)

◇場所：有峰

◇目的：有峰の動物・植物の観察

(広く、一般の参加を求め、会員拡大を図る)

◇交通手段・参加費 小型マイクロバス・2000円

◇参加者 24名(学会員4名、一般20名)

◇日程・活動内容

10:40~12:15

A班：猪根遊歩道で植物観察や実習

(講師：佐藤卓)

B班：旧有峰ハウスで土壌動物の観察・実習

(講師：平内好子)

12:15~13:00

旧有峰ハウス前で昼食・自己紹介

13:00~14:45

A班：旧有峰ハウスで土壌動物の観察・実習

(講師：平内好子)

B班：猪根遊歩道で植物観察や実習

(講師：佐藤卓)

14:45~15:15

A班B班合流し、ビジターセンターにて

まとめと振り返りアンケート記入

この観察会も今年で5回目となった。毎年、植物分野と動物分野の両方を盛り込んだプログラムを設定している。今回、動物は平内会員を講師とした「土壌動物」、植物は佐藤会員による「猪根山遊歩道の植物」であった。

毎年、参加者集めに苦労するが、今回は例年以上に出足が鈍く、一時は開催が危ぶまれた。しかし、新聞に掲載されたのを機に一気に申し込みが殺到し、結果的には定員を少し超えたところで締め切った。募集の仕方は常に課題である。

今年の観察会で工夫したのは、上記のように参加者をA、Bの2班に分けてそれぞれ午前と午後の2回、少人数で実習を行えるようにしたことである。昨年まで遊歩道を20人前後で歩くと、後ろ



の人が講師の話の聞けないなどの苦情もあったが、今回は、動物、植物ともに講師の目が行き届き、きめ細かい指導ができた。ただ、講師にとっては、午前と午後の2回をそれぞれ一人で担当しなければならぬので、少し負担が増える。

今年想定外の問題となったのは、有峰までのアクセスである。土砂崩れと改修工事のため、長期的に小見線が通行止めになっている。小口川林道は時間がかかる上に、子供の車酔いがひどかったりして、観察にいくらか支障をきたした。来年度は一考を要するところである。

◇感想

- ・有峰の自然が非常にすばらしかった。
- ・土壌動物の観察は時間を忘れるほどでした。植物観察もいろいろな植物が見れて良かった。ただ少しミッションが多かったような気がするが、それをこなすことで非常に有意義になりました。
- ・普段森林へ出かけることは少なく、先生方からいろいろな説明を受け、とても参考になりました。
- ・自然とふれ合い、学べてとても良かった。生態系などのしくみも良く分かった。また参加したい。
- ・まじまじと土を覗いたことがなかったので新鮮でした。土壌動物が乾燥に弱いというのも実感しました。
- ・林をゆったり観察できてよかったです。年齢を調べるのが興味深かった。
- ・植物、動物どちらの講師のかたも説明が分かり易く、楽しい観察会でした。いろいろなことを知ることができ、大変有意義でした。
- ・子供の頃に戻ったような気がしました。

(文責 平内好子)